

Daily Report(号外)

～FOMCの結果について～

概要

FRB(米連邦準備制度理事会)は4月30日-5月1日に開いたFOMC(連邦公開市場委員会)で、フェデラルファンド(FF)金利の誘導目標を5.25-5.50%とし、6会合連続で政策金利を据え置きました。

声明文では、「この数か月間は、委員会が目指す2%のインフレ目標に向けた進展は見られなかった」との文言を追加し、近い将来に利下げは行わないことを示唆しました。また、6月から米国債の保有額を減らしてバランスシートを縮小する量的引締めペースを緩め、米国債の削減額の上限を毎月600億ドルから同250億ドルに引き下げること決定しました。

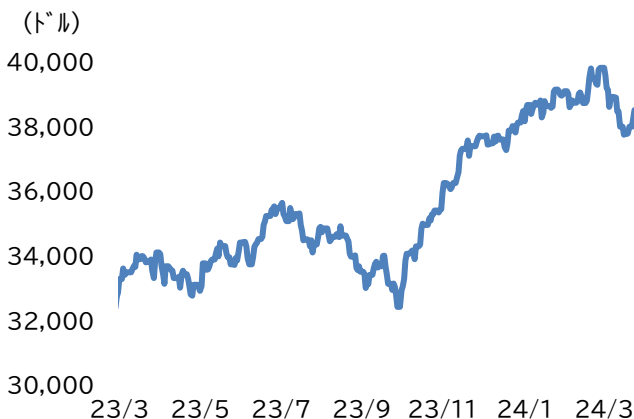
パウエル議長はFOMC後の記者会見で、インフレに関する経済指標の伸びが予想を上回っていることを認め、インフレ目標の達成を確認できるまで、従来の想定よりも時間がかかるとの見通しを改めて示しました。一方、一部の市場参加者が言及していた追加利上げについては、可能性は低いと否定し、現在の金融引締めがインフレ目標の達成に不十分である証拠はないと述べました。

市場の反応

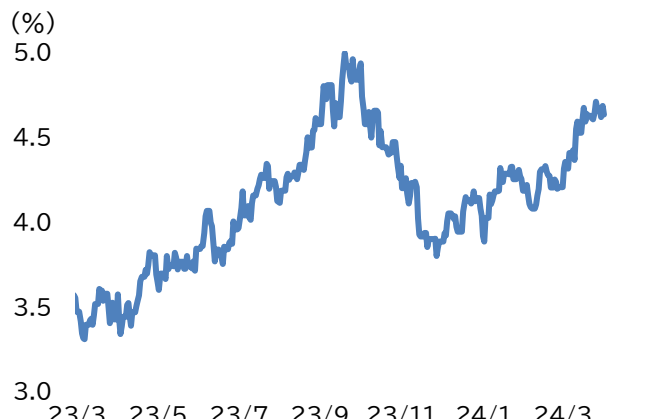
今回のFOMCの結果を受けて、債券市場では長期金利が低下した一方、米国の株式市場はまちまちの展開となりました。政策金利が据え置かれたことは市場予想の通りだったものの、パウエル議長が追加利上げの可能性を否定したことを受けて、長期金利は低下し、NYダウは上昇しました。一方、決算の結果が軟調だった半導体株の売りが優勢となり、ナスダック総合指数は下落しました。米国10年国債利回りは前日より0.05%低い4.63%まで低下しました。NYダウは前日比87.37ドル高の37903.29ドルで終えた一方、ナスダック総合指数は52.34ポイント安の15605.48で終わりました。

外国為替市場では、ドル円はパウエル議長の記者会見中は157円台で推移していましたが、その後、一時153円台まで急落しました。市場は、日本の通貨当局による円買い・ドル売りの為替介入が実施された可能性があると考えています。

NYダウの推移



米10年国債利回りの推移



(期間)2023/3/31～2024/5/1、(出所)Bloomberg

運用実績等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

また、シミュレーション等(前提は資料参照)については結果を確約するものではありません。

Daily Report(号外)

評価及び今後の見通し

今回のFOMCは、概ね予想通りの内容でした。ただし、パウエル議長が記者会見で追加利上げの可能性を否定したことについて、予想よりも金融引締めが消極的であるとの印象を持った市場参加者が多かったと見ています。一方で、金融引締めが長期化するとの見通しに基づけば、金利に再び強い上昇圧力がかかる可能性があると考えています。

次回6月のFOMCでは、FOMC参加者による経済見通しが発表されます。FF金利予測(ドットチャート)にて、年内の利下げ回数(中央値)が、3月時点の3回からどれだけ減るのかが注目されます。なお、FF金利先物市場が織り込む2024年度の予想利下げ回数は1回まで低下しています。

(ご参考)今後の主要イベント

| 日程 | イベント |
|-------------|------------|
| 6/6 | ECB理事会 |
| 6/11 - 6/12 | FOMC |
| 6/13 - 6/14 | 日銀金融政策決定会合 |

(出所) Bloomberg